介護老人保健施設しおさい

症　例　概　要　利用者：80代・女性・要介護5

病名：脳梗塞後遺症

利用サービス：令和4年8月～短期入所・デイサービスをご利用

経過：令和3年8月に脳梗塞発症し、後遺症にて嚥下障害・高次脳機能障害あり。発症後に経口訓練をされたが誤嚥性肺炎を数度併発されたことから、胃瘻造設された。退院後も、ご本人・ご家族ともに少しでも経口摂取をご希望されており、短期入所・デイサービスご利用時にもおやつのみ経口摂取出来るように取り組んできた。そして現在では昼食は他ご利用者とともにムース食を召し上がれており、ご本人に食べる喜びや希望をもたらせた症例。

内　　容

ご利用開始当初のご本人は、脳梗塞後遺症により経口摂取が難しく、基本は胃ろうから栄養を注入。僅かなら召し上がれるとのことで、プリン1個を少しずつ摂取出来る程度でした。時々ご自分の唾液でむせたり、痰がらみもみられ吸引することもありました。過去に誤嚥性肺炎を繰り返したとの既往もあり、しおさいとしても不安もありましたが、在宅医が西伊豆健育会病院であり協力体制も出来ている事を踏まえ、老健の強みを活かし、医師・看護・介護・栄養士・医療連携室・リハビリ職員の多職種で話し合い、ご本人のお気持ちに寄り添い、まずはおやつをむせなく召し上がっていただくことを目標としました。

ご家族が医療従事者であり、ご家族ともご様子を共有しながら、おやつの提供を継続していきました。徐々にむせや痰がらみもなく、安定しておやつ摂取が出来るようになりました。ご本人も穏やかな表情が増えて、発語も増えていきました。デイサービスの作品作りやリハビリにおいても意欲的な姿や笑顔が見られ、ご利用1年を迎えるころには短期入所とデイサービスを使いながら、日常のほとんどの時間をしおさいでお過ごしになっていました。そんなR5年春頃、ご家族より、「お昼ご飯を食べさせて欲しい」とのご要望を受けました。もともと医療の提供を受けていた頃は、経口から食事は困難と判断され胃ろうになった経緯もあり、おやつもチャレンジだったので不安もありましたが、再度しおさいがワンチームとなり、「ご飯を食べていただきたい」と同じ思いで、ご家族のご希望を受け入れることしました。

また強い味方である、西伊豆健育会病院の医師や看護師も外来や往診にてフォローしていただけるという、アワーチーム力もあったので、安心してチャレンジすることが出来ました。令和5年4月より昼食のみ食事提供を開始しました。当初はご家族のご希望で昼食時は他ご利用者より少ない量の提供と、昼食後には胃ろうから栄養剤の注入も行っていました。

しかし、咀嚼や嚥下のご様子と、その後の呼吸状態などから、1食分を経口から摂取できるのでない

かと思い、また何よりご本人の美味しそうに召し上がるご様子や「食べたい」というお気持ちを汲み、今度はしおさいからご家族に食事量の増量をご相談したところ、昼食全量提供にステップアップすることが出来ました。それまでデイサービスなどおやつの時間以外は他ご利用者の食事を羨ましそうにみていることもありましたが、現在は皆様と一緒に「美味しい」と召し上がっております。医療だけでは果たせなかった経口摂取を、介護施設で諦めずにチャレンジした結果、ご利用者にとって「食べる事の喜び・希望」をもたらし、またお話もたくさんして下さるようになりました。ご本人だけではなくご家族の思いにも寄り添えた症例となりました。